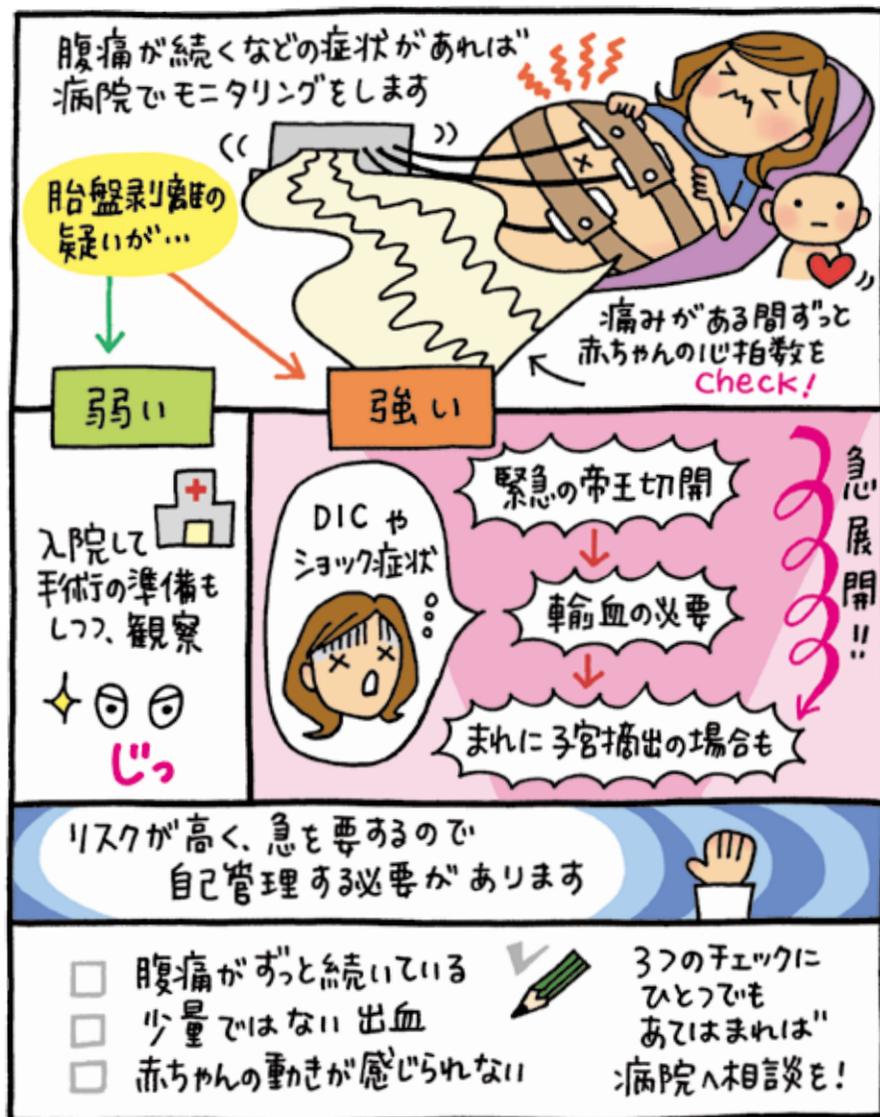




胎盤がはがれて しまったらどうなるの？



一刻も早く緊急帝王切開へ。 でも通常よりずっとハイリスク!

- 症状としては、性器出血や子宮の圧痛・腹痛、頻回な子宮収縮などがあります。はがれた胎盤からの出血は、量が多い場合も少ないこともあります。腹痛は痛みと無痛が定期的に訪れる陣痛や前駆陣痛と違い、痛みが持続することが特徴です。ただしこれらの症状がすべて出ることもあれば、ないこともあります。
- 腹痛がずっと続くようなときは、すぐに病院へ連絡します。分娩監視装置で胎児心拍のモニタリングをし、子宮収縮が頻回になっていないか、胎盤機能不全が起こっているかどうかなどをチェックします。この病気は、確定診断がとても難しいので、病気を疑い、細心の注意をはらって観察することになります。
- 一度はがれかけてしまった胎盤が再び元の状態に戻ることはないので、治療は赤ちゃんを胎外に取り出し、妊娠をできるだけ早く終わらせることです。症状が明らかで病気が強く疑われるようなら、帝王切開で赤ちゃんを取り出します。病状によっては一刻を争うような事態が訪れることもあります。はがれ方が軽度かつ、赤ちゃんの心拍が正常で、短時間の分娩終了が予測できる場合には、手術の準備を並行して行いながら、分娩の経過を見守ることもあります。
- 母体においては、子宮内に大量出血をすることで、止血する成分が失われ、出血が止まらなくなる「DIC」という状態や、ショック症状が起こりえます。その場合は輸血などが必要で、帝王切開術も、通常よりずっとリスクが高くなります。
- 赤ちゃんと胎盤を無事に娩出した後も、弛緩出血（→「弛緩出血」参照）が起こりやすくなっています。命を守るために子宮自体を摘出する場合があります。
- 万一この病気になっても素早い対応でリスクを減らすことは可能です。妊娠中期を過ぎたら、左の3つのチェック事項を頭に入れ、自己管理に努めましょう。